

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームママーズの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	岐阜県羽島市竹鼻町駒塚4 - 1043
記入者名 (管理者)	吉田淳美
記入日	平成 20年 8月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		「寄り添う介護 思いやりをかたちに…」に「地域との共生」を加え、地域密着型サービスに対応する。
<input type="checkbox"/>	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
<input type="checkbox"/>	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
<input type="checkbox"/>	<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		自治会に加入し、地域の行事については、運営推進会議や区長さんと相談しながら、参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献としてボランティアの受け入れも積極的に行い、地域の方々から、認知症介護の相談も受けている。		地域での介護予防教室・認知症勉強会など催していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を把握し、全職員で自己評価を行っている。前回の評価結果を受け止め、日常の業務にも活かしている。		評価の結果を真摯に受け止め、業務に当たりたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議で、ホームの日頃の様子や取り組みを報告し、皆様からの意見を頂きサービス向上に努めている。		評価結果を伝え、サービス向上のためにご意見を頂きたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の方々とは、相互に情報を交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる		介護相談員派遣事業に加入し、サービスの向上に取り組みたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前回同様利用されている方はみえないが、ホーム内外の研修によって理解し、対応できるように心掛けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、重要事項説明を丁寧に行ない、理解して頂いている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様からご意見、要望などを頂いた際は、出来ることは即時対応させて頂き、改善の経過や結果を伝えていくよう心がけています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでいかにお過ごしかを知って頂くために、毎月お便りを発行している。健康状態が思わしくない折には、ご家族に報告している。</p>	<p>身体の状態に合わせて、プラン変更・ケア内容の変更は、主治医の指示の基、スタッフ全員と検討し、家族へ伝え「同意印」を頂く。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問の際・家族会などで、話し合いの機会を持ち、忌憚のない意見を聞かせて頂き、運営に活かしている。</p>	<p>家族会の中で、家族同士の集まりを作るなど、意見を出しやすい方法も考慮していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング等で、意見や提案を聞いている。全てではないが、出来るだけ取り入れて、運営に活かすよう努力している</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事・外出の際に対応できる人員を確保している。利用者様に支障が出ないよう勤務を調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者様・ご家族様に、その旨をお知らせし、特に利用者様に影響が出ないよう職員がフォローしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内のミーティングには、全員が参加出来るよう工夫している。事務所全体のミーティングには、交代で参加し、議事録を全職員が閲覧している。		社内研修は基より、社外での研修の機会も持てるよう考慮している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム協議会などに参加し、サービス向上の為に研修を行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	状況によるが、一時的に落ち着ける空間と時間を得られるよう気を配っている。		全員参加は難しいが、親睦会などで職員間のコミュニケーションを深めるようにしたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員に資格取得に向けた支援を行うと共に、運営者が定期的に面接を行うなどして、各自が向上心を持って働けるよう努力している。		運営者が定期的に来所し、スタッフの業務状況や、悩みを把握し、相談助言しているため、現場管理者も協力して行いたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の不安や求めていることを把握し、受け止め、信頼関係が築ける様全力を尽くしている。		生活歴を把握した上で、出来るだけ楽しかったこと、自慢できること、個々のお気に入り、スタッフ全員が共有しケアに生かしていく。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労やサービスの利用状況などをゆっくり聞き、まずはご家族の気持ちを受け止めることに重点を置いている。		入所の決断など、家族の気持ちを察し、案心して頂ける様な報告で、コミュニケーションを図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム入所が最善の方法と限らないので、ご本人とご家族とのニーズを受け止め、ケアマネと連携しながら、必要に応じ支援する。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族にホームの様子を見て頂く。体験入所で慣れて頂く事もある。やむを得ずすぐ利用される際には、ご家族など慣れ親しんだ方に来てもらって安心感を持って頂く様にします。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活し、お互いが協働活動しながら、和やかな生活が出来るように声掛けをしている。		家族と同様に支え支えられながら、日常生活が送れるよう支援する。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を写真入りお便りを通信とし、家族の思いに寄り添いながら、家族と同じような思いで介護している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受けとめ、行事に家族を誘いながら、より良い関係の継続に努めている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入所されても、地域に暮らす馴染みの知人友人と交流ができるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は、職員も一緒に会話を持つようにしたり、レクリエーションを通し、利用者との関係が円滑になるように働きかけをしている。		場面によって入所者様同士、なだめ役になったり、相談者になったりして、支えあう力を引き出している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方にも、近況を聞くなどして、相談に乗りながら、関係を断ち切らない付き合いをするように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全員が、一人ひとりの思いや意向に関心を持ち、思いを引き出せる様努力している。ご本人様にとって現在の生活が望ましいかを各々の状況に合わせて家族共話し合っている。		日々の暮らしの中で、言動・表情から、表現の難しい方の意思の伝達手段を、全スタッフで共有できるよう報告・申し送りを徹底する。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	表現困難の場合でも、日々の言動・行動からも把握に努め、家族や過去のケアスタッフなどからも把握し、出来るだけ近い生活を積み重ね、安心の暮らしを提供する。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活リズムの中から、各々に出来る事は大いに活用頂ける様な環境づくりに努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人にとって第二の我が家であり、地域の中で一人ひとりの、その時点に添った個別・具体的なプランに努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングの中で、スタッフ全員から気付き・意見などから見直しプランを作成実施している。		全職員との検討会を充実させ、変化に応じたプランを作成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護支援記録を基に、食事摂取量・排泄量等、内容が一目瞭然できる記入方法の実施。身体的・精神的状況の申し送りは記録と言葉で実施。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	在宅生活時の馴染みのつながりへの配慮で、通院・美容院など介助の実施し、個々の満足を高めるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員様の計らいでふれあいサロン参加者との交流会や、公民館のサークルのボランティアや、地域の方々の協働(書道講師・七夕・流しそうめんの竹提供・子供神輿訪問など)実施している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個々の希望を受け、必要に応じ、地域のケアマネージャと連携を図っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	長期的な視野に立ってマネジメントしていく為に、地域包括支援センターの方々に見学して頂いた。		今後、運営推進会議に参加していただくなど、周辺情報や支援に関する協力関係を考慮していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの基本的説明の上で、本人と家族の思い、希望に添って、ホームの主治医のほか、以前からの掛かり付け医・歯科・眼科・はじめ専門医の受診、または往診などの支援を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の中でも、認知症、各々の症状に対して適切に丁寧な説明、支持の頂けるドクターに協力頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に専属の看護師の配置があり、入所者各々を把握し、状態変化に応じた支援が出来る様にしている。症状によっては主治医と連携が密に取れる体制が確保されている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、医療機関へ支援方法、記録内容等の情報提供し、退院に向けて、ドクター・ナース・家族・ケアマネ等と検討し、なるべく早く平常の生活が出来る様援助する		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	年二回家族会の個人面談の際、常にかぞくの意向を傾聴し、ホームのケアの力量も考慮しながら、終末ケアの対応方針を再々度話し合っている。		ホームの看護師・介護スタッフの技量を高め、出来るだけご本人・家族の意向に添える様取り組んでいきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族・ドクター・ナース・介護スタッフと安心・安全なチームケアが出来る様、密に連携を図りケアしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	いつの時でも、住居の変化に伴う弊害があってはならない為、今まで生活の継続と環境作りが精神的に安心・安定の必要条件である事を心した連携を図る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>勉強会やミーティングにて職員の意識向上を図り、尊厳ある支援を徹底していく。</p>	<p>全スタッフが個人情報保護法の基、一人ひとりに尊厳ある支援を徹底していく</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者自身に午前中飲み物を伺い選んで頂くなど、些細なことでもご自分が決定される場面を作っている</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、その日の本人の体調・気持ちを尊重し、参加して頂く様、支援をしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>二ヶ月に一回、美容師に訪問していただいております。希望の方には、入所前利用されていたところに行っていただき、また、日常の服装に於いても、自己決定しにくい利用者様には、相談に乗っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は一日の活動源。調理までは難しくてもテーブルを拭いたり、おしぼり作りなど手伝って頂いています。又、会話をしながら、食材の利用法・調理法・好みなどを聞いています。</p>	<p>食材の利用法など、利用者様が、過去どのような調理をされていたかを聞き出し、家族のために一生懸命であった頃の話話を膨らませ、会話の絶えない食卓としたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族の方から頂いたものを召し上がったたり、その時々のお話の中から、好みのものを楽しんで頂ける様に支援し、外出時に好きなものを買っていただいている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、尿意の無い利用者様にも時間を見はかって誘導し、トイレで排泄できるように支援しております。		個々の体質を全スタッフが把握し、さりげない誘導、トイレ排泄成功を継続していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各自のペースで入浴していただき、希望により別の日に変更しております。不安、恐怖心を抱かないよう、羞恥心を感じないよう介助している。		健康とリフレッシュを得られるよう、回数・時間帯を配慮したい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	前夜の睡眠状態、日中の疲れ具合により、個別に休息を取っていただいております。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力を生かし、力を発揮できるように援助している。洗濯物を干して頂いたり、畳んで頂く等、日常に即したものや色塗りやちぎり絵等、創作活動も楽しめるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員でなくても本人の希望により、少額のお金を持って、ご自分で支払うと言うことで社会性の維持につなげ、外出時は可能な限り、ご本人に支払いをしていただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、デイサービスとの交流、庭先での食事会、季節ごとの花見外出、外食等、戸外に出掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人が行きたいと思う外出については、予め職員体制の調整や他部所からの協力を依頼し、徐々にはじめている。場合によっては、家族の協力を依頼することもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、日常的に電話しやすい雰囲気作りやプライバシーに配慮しながら、取次ぎ、電話の設置場所を工夫している。絵手紙などを出すための支援も行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何よりも職員が明るく笑顔で迎えるよう心がけ、訪問時間は定めず、都合の良い時間帯にいつでも来やすく居心地の良い場所、空間作り、話題づくりをさりげなく行い、家族の遠慮を取り除くよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやケアプランで約束されている以外に身体拘束が行われていないか、日々の申し送りなどで点検している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様が自由な暮らしが出来る様、その日の気分や状態を、きめ細やかにキャッチし、日々職員間で話し合い、見守り、支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者様と同じ空間にいて、利用者様全員の状態を把握できるよう努めている。夜間は定期的に巡回し、利用者様の様子を確認している。起きられる際はすぐ対応できるよう工夫している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべて排除するのではなく、利用者様に注意を促しながら、対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様のADLを理解し、小さな事故情報を見逃さないよう、常に職員の連携を持つようし、予防策を盛り込んだ報告書を提出検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が応急手当に対応できるよう、随時勉強会を行っている。夜間の連絡体制は明確に示されている。		消防署や行政の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を予定している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に対しては、消防署に協力を得て、避難訓練を定期的に行っている。地域の消防団とも連携を取っている。		消防署の協力を得て、避難訓練を実施し、火災・事故防止の観点として、近隣の建物等で危険な場所の確認をしたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	各自の利用者様の家族とケアプラン作成時、家族会等の訪問時に話し合う機会を持っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色、様子に注意し、言葉掛けを怠らず、変化が見られる際にはバイタルチェックを行い、看護師、管理者に報告、状況により医療受診につなげている。日勤帯、夜勤帯間で、対応、経過の報告を密に情報を共有する。		一人ひとりの利用者様の、持病・アレルギーの有無など、変化が起こった場合の職員間の情報共有を徹底する。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用は、個人の資料に詳しく記されているため、活用している。服薬時の飲み忘れ、誤薬を防止する為、職員で確認、チェックを繰り返し、利用者様に手渡し、服薬確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、水分を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。体操やレクリエーションなど体を動かす機会を設け、入浴時、腹部マッサージを行い、自然排便が出来る様になっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、うがいの声掛けを行い、個々の能力に応じて、職員が見守り、介助している。就寝時には義歯洗浄を行っている。		
栄養摂取や水分確保の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。個々の状態に合わせ、内容を考慮し、時間を掛けたり、時間をずらしてでも摂取して頂ける様対応している。		個々の状態に合わせて内容を考慮し、時間を掛けてでも摂取して頂ける様、気長な対応をする。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症についてマニュアルを作り、職員が学習し、予防対策に努めている。職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用している。さらに訪問者にも手洗い、うがいをお願いしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は熱消毒、布巾、まな板は漂白し、清潔を保つよう心がけている。又、食材の点検はこまめに行い、無駄なく使用できるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように、案内板の足元、玄関先にプランターを置いて、季節感を演出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家のような感覚で、ご飯の炊ける臭いがし、季節の花を掛け、廊下に皆さんで創った作品を飾るなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの高さを一人ひとりに合わせ、楽しく会話できるように席の配置を工夫している。フロアの壁には、利用者の創作作品を掲示して、自然に会話が弾むように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へ家族の写真を貼ったり、利用者の馴染みの物をいつも目に付くところに置くことにより、自分の部屋として落ち着いて過ごして頂ける様に配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前中は必ず空気の入替えを行うようにし、利用者の体調を考慮し、温度調節を行っている。発汗の様子や冷えなどに注意している。トイレは常に換気扇を付け、消臭剤を使用し、悪臭の出ないように工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の活動性を維持する為に、車椅子やシルバーカー等個人の状態に合わせて採り入れている。また転倒につながる原因が無いように職員一同配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人にとって、何が分かりにくいのか、本人の力でどうしたらやっていただけるかを追求し、状況に合わせて環境整備を努めている。新たに混乱、失敗が生じた場合は、職員一同で話し合いを重ね、本人の不安を取り除き力を取り戻せるように試みている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターの水遣りや植えた花の成長を利用者様が、日常的に楽しめるように居室やフロアから眺められるように配慮している。天気の良い日は外で昼食を楽しんだりし、玄関先の駐車場を活用している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今までの在宅生活の延長として、現在持ってみえる力を最大限生かし、第二の家としてのママーズの家での生活を、心豊かに過ごして頂きたいとスタッフ一同努力しています。ご家族との絆も大切にしながら、ホームでの生活に楽しみを持って頂く様、工夫しています。これからは、地域との絆にいっそう力を入れて取り組みたいと思っています。